



建設業の業況感改善傾向、 小売業客数伸びず悪化傾向

平成 30 年 1 月～3 月 中小企業景況調査 結果報告書

当所では、藤枝市内小規模事業所の経営動向を把握するため、四半期ごとに景況調査を実施しています。

平成30年1月～3月期の調査がまとまりましたので、概要を報告します。

※本調査は、製造業・建設業・卸売業・小売業・サービス業の5種200社を対象に行っています。今回の回収率70.5%

【主要な表現について】

○業況判断:調査対象企業が自らの業績に下した判断。 ○DI値:(増加・好転と回答した割合)－(減少・悪化と回答した割合)
悪化すればするほどDI値は▲(マイナス)になります。

管内全産業の業況

業況判断の動向(表1)：全産業での業況は、DI値▲15.8で前回(H29年9月～12月)より3.9ポイント改善。今回は建設業がプラス域に改善、製造業、サービス業はマイナス幅が縮小し、他業種は悪化しました。今回特に改善した建設業では材料仕入単価の好転があげられ、今後の課題として請負単価の低下への対応があげられました。

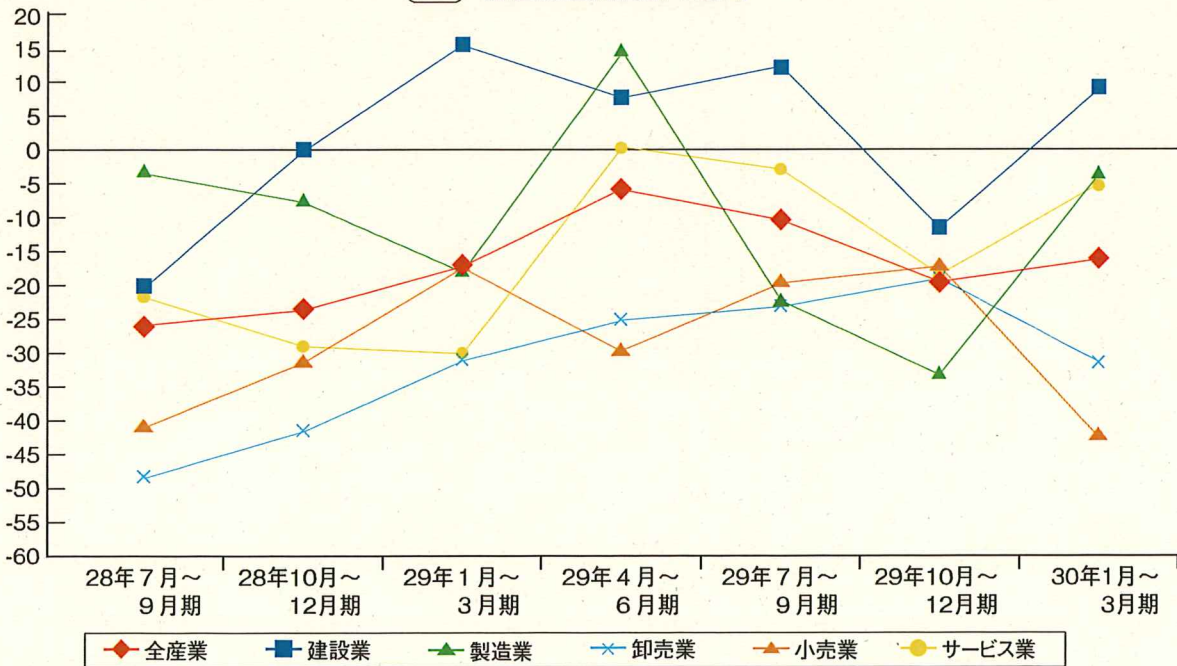
全産業売上高の推移：前回▲27.0ポイント(H29年9月～12月)から14.2ポイント改善しました。
全体統計では依然としてマイナス値だが建設業、製造業が改善傾向を示しました。
また、小売業は客数DI値▲43.7を含め特に悪化傾向を示しました。

全産業資金繰りの動向：前回▲12.1ポイント(H29年9月～12月)から7.7ポイント改善しました。
全体統計では改善傾向だが小売業、製造業は悪化傾向を示しました。

全産業採算の動向：前回▲27.0ポイント(H29年9月～12月)から6.4ポイント改善しました。
全体統計では改善傾向だが全産業依然としてマイナス値を示しました。

全産業雇用人員の動向：前回2.3ポイント(H29年9月～12月)から1.5ポイント悪化しました。
全体統計ではプラス値だが建設業以外の業種はマイナス値を示しました。

表1 業種別業況判断の動向



問合せ先 藤枝商工会議所 経営支援課 TEL: 054-641-2000